

審査意見への対応を記載した書類（6月）

医学系研究科 看護学専攻（D）

（目次）

<設置の趣旨・目的等>

1.

本専攻においては、国内のみならず国外で活躍できる人材を養成するために国際社会に貢献できる能力を修得するとあるが、本専攻において修得すべき能力の水準が不明確なので、ディプロマ・ポリシーにおいて明確になるよう修正するとともに、対応する教育課程や指導方法が適切であることを説明すること。（是正意見） 3

<教育課程等>

2.

授業科目について、例えば「健康科学特別演習」など、シラバスにおける授業回数や具体的な授業内容、到達目標の記載が不十分なものや、出席率を評価するように見受けられるものが散見されるため、ディプロマ・ポリシーに照らして教育内容や評価方法が適切であるかも含めて網羅的に確認し、必要に応じて修正しシラバスに反映させること。

（是正意見） 7

3.

本専攻では、学際的な研究能力を修得するために、積極的な指導を行うと共に様々な学修機会を提供するとあるが、セミナーや研究発表会等への参加を学生に促すだけでは不十分と考えられるため、以下の点に対応し、適切な指導・学修機会が提供されることを説明すること。

（1）光医工共同専攻で開講している科目の積極的受講を推奨するなどの記載があるが、具体的な指導方法が不明確なため、明確に説明すること。併せて本専攻以外の科目を履修しながら本専攻として体系的な学修が可能であることを説明すること。

（2）学生に推奨された科目の受講やセミナー等へ参加しなかった場合も想定されるが、そうした学生に対する個別の指導方法や代替措置等のフォロー体制について説明すること。

（3）学際的な研究能力の修得と、現象学的研究に精通した副指導教員との研究指導体制の関係や内容が不明確なため、具体的に説明すること。（是正意見） 8

<入学者選抜>

4.

入学者選抜において、社会人の入学を想定するが、社会人枠は設けないとある。一方で、社会人の選抜に当たっては、社会人としての経験を含めて総合的に評価するとあるが、選抜方

法や評価方法が不明確なため、アドミッション・ポリシーとの整合性も踏まえて具体的に説明するとともに、修士課程から進学する学生に対する選抜・評価方法との違いを説明すること。（是正意見） 21

(是正事項) 医学研究科 看護学専攻 (D)

1. 本専攻においては、国内のみならず国外で活躍できる人材を養成するために国際社会に貢献できる能力を修得するとあるが、本専攻において修得すべき能力の水準が不明確なので、ディプロマ・ポリシーにおいて明確になるよう修正するとともに、対応する教育課程や指導方法が適切であることを説明すること。

(対応)

審査意見を踏まえ、当初案のディプロマ・ポリシーでは、「国際社会に貢献できる能力を修得する」としていたが、「教育・研究活動を通じて地域社会および国際社会 の問題を理解し考える 能力」と、修得すべき能力の水準が明確になるよう表現を修正するとともに、設置の趣旨を記載した書類にも反映する。

昨今の看護学・看護分野において国際社会だけでなく日本の中でも外国人の対応や人々が持つ多様性を理解し、個々人が求めるニーズに対応できる「国際社会の問題を理解し考える能力」の修得が喫緊の課題となっている。このことは、一般社団法人日本看護系大学協議会が作成した平成 25 年度大学における医療人養成推進等委託事業「看護系大学院における教育の基準策定と評価に関する調査研究報告」に＜グローバルに対応する＞ことが求められているとの記載があり、今回本博士後期課程を設置するにあたって提出された「静岡県看護協会からの要望書」(資料 A1) には「国際的な視野を持ってイノベーションを起こすことができること」が期待されている人材像として盛り込まれている。

こうした情勢に対応するため本博士後期課程では、入学者選抜において筆記試験(英語)で英語の論文を読解し、その内容の理解度を問うことで、英語能力を確認することとしており、アドミッション・ポリシーで掲げる「国際的・学際的視野を持ち、人間の健康と福祉に貢献する意欲を持つ人」を選抜することとしている。

また、本専攻においてこの能力修得に対応する教育課程としては、

(1) 共通科目「看護学研究方法論」で看護学研究における英語での論文の書き方を指導し、外国人教師による授業では、研究成果を効果的に発信できるように英語でのプレゼンテーションやディスカッションの仕方について指導する。

(2) 各領域の「特講」・「特別演習」を通じて、専門分野における海外原著論文の文献クリティークやレビュー、ディスカッションにより、専門領域における課題や問題を抽出できるよう指導する。

(3) 本学が実施している「慶北-浜松合同医学シンポジウム」において、学生が進めている研究の内容などについて英語での発表を「特別研究」の一部として課す。その研究発表については主指導教員が内容とともに英語での適切なプレゼンテーションとなるよう学生の理解度・進行度により適切に指導する。また、シンポジウムの場合においても慶北大学校(韓国)の研究者とのディスカッションを通じて実践的な指導を行うこととする。

なお、「慶北-浜松合同医学シンポジウム」とは、慶北大学校医科大学及び看護大学と締結した学術交流協定に基づき、平成 13 年から韓国大邱広域市と浜松市で毎年交互に開催しているものである。「NURSING SESSION」では双方の大学の大学院生や教員が英語での研究発表を行い、活発な意見交換が行われている。(別紙 NURSING SESSION プログラム参照)

このような教育課程によりディプロマ・ポリシーに掲げた「国際社会の問題を理解し考える能力」の修得は可能であり、対応する指導方法も適切であると考えている。



(新旧対照表)

設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
Ⅲ. 教育課程の編成の考え方及び特色 2. 教育課程の特色 5) 「特別研究」の教育方法 「特別研究」は、共通必修科目「看護学研究方法論」、共通選択科目、各専門領域の「特講」及び「特別演習」で修得した知識・技術を基盤とし、各専門領域の教員による指導のもと、自らの研究課題を設定し研究活動を展開して課題解決に資する新しい知見を明らかにし、論文を作成して公表できることを目標とする。 自身が着目する事象について研究課題として設定する。専門領域の「特論」で、研究課題の背景にある事象を幅広くかつ深く捉	Ⅲ. 教育課程の編成の考え方及び特色 2. 教育課程の特色 5) 「特別研究」の教育方法 「特別研究」は、共通必修科目「看護学研究方法論」、共通選択科目、各専門領域の「特講」及び「特別演習」で修得した知識・技術を基盤とし、各専門領域の教員による指導のもと、自らの研究課題を設定し研究活動を展開して課題解決に資する新しい知見を明らかにし、論文を作成して公表できることを目標とする。 自身が着目する事象について研究課題として設定する。専門領域の「特論」で、研究課題の背景にある事象を幅広くかつ深く捉

え、研究課題を焦点化し意義を明確にするという過程や、「看護学研究方法論」における学際的研究方法の学修を通じて、旧知の発想にとらわれず、多面的な視点で問題を捉え研究課題を設定する。研究方法の策定にあたっては、「看護学研究方法論」で学んだ学際的研究方法に関する知識や、選択必修科目で学修した専門的知識や技術、「特別演習」で検討した内容をふまえ、信頼性・妥当性・実現可能性の高い研究計画を立案する。 この研究計画についての中間審査を受審する。3名の審査員から成る中間審査委員会によって計画の適切性が審査され、提示された修正・改善点をふまえて研究計画を修正し、倫理審査を受ける。 倫理審査委員会の承認を得た後、データ収集のための手続きをとり、パイロットスタディによってデータ収集方法、分析方法の洗練化を行ってデータ収集を実施する。得られたデータを分析し、結果を検証し、博士論文を作成して投稿する。国内学会や国際学会で成果を発表する。投稿し受理された論文及び関連する知識などについて博士論文審査委員会で発表し審査を受ける。 <u>本学が実施している「慶北-浜松合同医学シンポジウム」において、学生が進めている研究の内容などについて英語での発表を「特別研究」の一部として課す。その研究発表については主指導教員が内容とともに英語での適切なプレゼンテーションとなるよう学生の理解度・進行度により適切に指導する。また、シンポジウムの場においても慶北大学校（韓国）の研究者とのディスカッションを通じて実践的な指導を行うこととする。</u>	え、研究課題を焦点化し意義を明確にするという過程や、「看護学研究方法論」における学際的研究方法の学修を通じて、旧知の発想にとらわれず、多面的な視点で問題を捉え研究課題を設定する。研究方法の策定にあたっては、「看護学研究方法論」で学んだ学際的研究方法に関する知識や、選択必修科目で学修した専門的知識や技術、「特別演習」で検討した内容をふまえ、信頼性・妥当性・実現可能性の高い研究計画を立案する。 この研究計画についての中間審査を受審する。3名の審査員から成る中間審査委員会によって計画の適切性が審査され、提示された修正・改善点をふまえて研究計画を修正し、倫理審査を受ける。 倫理審査委員会の承認を得た後、データ収集のための手続きをとり、パイロットスタディによってデータ収集方法、分析方法の洗練化を行ってデータ収集を実施する。得られたデータを分析し、結果を検証し、博士論文を作成して投稿する。国内学会や国際学会で成果を発表する。投稿し受理された論文及び関連する知識などについて博士論文審査委員会で発表し審査を受ける。
---	---

<u>光医工共同専攻の科目の履修やセミナーの受講についても主指導教員と1年次に研究課題を絞り込む際に、研究指導の中で相談した上で受講することとし、受講の都度レポートを提出し、特別研究の中で評価を行うこととする。</u> これらのプロセスを通じて、自立して独創的な看護学研究を実施する力はもとより、新しい学際的課題にチャレンジできる能力を培う。「特別研究」は、博士後期課程における学修の集大成の場であり、研究活動を実施するためのステップについて着実に高度な研鑽を重ねていくことが、地域、国内外でオピニオンリーダーとして貢献するための素養を培っていくことにつながる。 IV. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件 7. 修了要件 本博士後期課程のディプロマ・ポリシーは次のとおりである。 1. 最新の看護学の知識・技能の習得および向上開発を図り学修を継続する能力 2. 高い専門性を持ち、リーダーシップを発揮する能力 3. 専門性と倫理観に基づき、看護学の発展に寄与する研究を遂行できる能力 4. 異分野と連携し、新しい学際的課題の探究にチャレンジできる能力 5. 教育・研究活動を通じて地域社会および<u>国際社会の問題を理解し考える能力</u> 修了要件は、原則として3年以上在学し、13単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文についての研究成果の審査及び試験に合格することとする。	これらのプロセスを通じて、自立して独創的な看護学研究を実施する力はもとより、新しい学際的課題にチャレンジできる能力を培う。「特別研究」は、博士後期課程における学修の集大成の場であり、研究活動を実施するためのステップについて着実に高度な研鑽を重ねていくことが、地域、国内外でオピニオンリーダーとして貢献するための素養を培っていくことにつながる。 IV. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件 7. 修了要件 本博士後期課程のディプロマ・ポリシーは次のとおりである。 1. 最新の看護学の知識・技能の習得および向上開発を図り学修を継続する能力 2. 高い専門性を持ち、リーダーシップを発揮する能力 3. 専門性と倫理観に基づき、看護学の発展に寄与する研究を遂行できる能力 4. 異分野と連携し、新しい学際的課題の探究にチャレンジできる能力 5. 教育・研究活動を通じて地域社会および<u>国際社会に貢献できる能力</u> 修了要件は、原則として3年以上在学し、13単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文についての研究成果の審査及び試験に合格することとする。
--	---

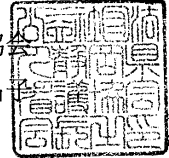
令和3年2月26日

国立大学法人 浜松医科大学

学長 今野 弘之 殿

公益社団法人 静岡県看護協会

会長 渡邊 昌幸



静岡県の看護職高等教育に関する要望書

諸外国に例をみないスピードで高齢化の進行しているわが国は、地域包括ケアシステムの構築が推進され、厚生労働省の方針の下に、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げることが求められています。また、従来の「病院完結型医療」から「地域完結型医療」へと医療提供体制を大きく転換することが求められており、受け皿となる地域・在宅医療、介護を充実させることは喫緊の課題です。看護職は、高度な医療から保健、在宅、福祉と様々な場で幅広く活躍し、看護職間のみならず多職種間の連携を進めていく役割が今後ますます求められています。また2020年には世界規模で新型コロナウイルス感染症が拡大し、人類はかつてない危機に直面していますが、この渦中で看護職の重要性が社会的に広く認知されることとなりました。既存の多くの課題に取り組みつつも今後も新たに遭遇しうる事態に柔軟に看護職として総力を挙げて対応していくには、全体の資質の向上が必須であります。

静岡県看護協会は、看護職の資質向上と県民の健康で幸福な生活の実現への貢献を目指し活動しております。本会においても病院や施設、在宅領域、行政で働く看護職、行政や関係団体との多職種連携を進めておりますが、教育機関との連携もまた重要であると認識しております。特に看護職全体の力を高めていくには、看護基礎教育の充実はもとよりそれらに携わる看護教育者や看護管理者の能力の向上が重要です。

浜松医科大学におかれましては、大学院医学系研究科に看護学専攻博士後期課程を設置する準備を進めておられると伺っております。高度専門人材としての教育者・研究者となる人が、実践現場と乖離しないよう主体的に教育や研究で得た知見と現場を一体化し還元できること、また国際的な視野を持ってイノベーションを起こすことができることが今後の看護の発展には必要であり、そのような人材を貴学大学院で養成されることを強く要望いたします。

**The 18th Kyungpook-Hamamatsu
Joint Medical Symposium
Hamamatsu Meeting**

**SYMPOSIUM
NURSING SESSION**



4th December 2018
Hamamatsu University School of Medicine
Faculty of Nursing

**The 18th Kyungpook-Hamamatsu Joint Medical Symposium
Hamamatsu Meeting**

4th December 2018 Hamamatsu University School of Medicine

Symposium Nursing Session

Program	
13:00~13:20	Welcoming speech: Representative of Faculty of Nursing, Hamamatsu University School of Medicine - Naomi Sato(Professor, Clinical Nursing, HUSM) Congratulatory speech: Dean of College of Nursing, Kyungpook National University - Hee-Sook Lee (Professor, Dean of College of Nursing, KNU)
Session 1 (Chairperson: Akiko Mizuta, Community Nursing, HUSM)	
13:20-13:35	Comparison of nursing practice for rectal constipation in long-term care insurance facilities - Tomoyoshi Naito (Assistant Professor, Clinical Nursing, HUSM)
13:35-13:50	Effects of an Anger Management Program Utilizing REBT for Juvenile Male Prisoners - Jae-Wan Park (Master Student, Nursing, KNU)
13:50-14:05	Structure of experiences of disease of progressive stroke patients - Mitsuyo Kawashima (Assistant Professor, Clinical Nursing, HUSM)
14:05-14:20	Nursing students'experiences on integrated simulation practice using keyword network analysis - Mikyung Moon (Associate Professor, Nursing, KNU)
Session 2 (Chairperson : Akiko Mizuta, Community Nursing, HUSM)	
14:20-14:35	The process by which alcoholics achieve both employment and abstinence - Yukiko Sano (Assistant Professor, Community Nursing, HUSM)
14:35-14:50	A correlational study of emotions and self-management behaviors in patients with hemodialysis: a longitudinal analysis - Jieun Cha (Assistant Professor, Nursing, KNU)
14:50-15:05	Efforts to reduce physical restraint in an intensive care unit - Takaaki Honma (Nurse, University Hospital, HUSM) - Shigeaki Nakae (Nurse, University Hospital, HUSM)

(是正事項) 医学研究科 看護学専攻 (D)

2. 授業科目について、例えば「健康科学特別演習」など、シラバスにおける授業回数や具体的な授業内容、到達目標の記載が不十分なものや、出席率を評価するように見受けられるものが散見されるため、ディプロマ・ポリシーに照らして教育内容や評価方法が適切であるかも含めて網羅的に確認し、必要に応じて修正しシラバスに反映させること。

(対応)

審査意見を踏まえ、以下のように授業科目についてシラバスにおける不十分な記載については、下記のように修正を行う。

また、「成績評価の方法」については、全ての科目において成績評価方法について見直し、各評価項目の評価割合をシラバスに記載することにより、明確化する。

(新旧対照表)

シラバス

新	旧
<u>別紙参照</u>	<u>別紙参照</u>

看護学研究方法論

新						旧					
研究科		医学系研究科看護学専攻 博士後期課程		授 業 科 目 区分	共通科目	研究科		医学系研究科看護学専攻 博士後期課程		授 業 科 目 区分	共通科目
授業科目名 (英文名)		看護学研究方法論 (Strategy and Skills for Advanced Nursing Research)				授業科目名 (英文名)		看護学研究方法論 (Strategy and Skills for Advanced Nursing Research)			
担当教員		○渡井いずみ、Michael Johnson、庭山正嗣、金 鎖赫				担当教員		○佐藤直美、渡井いずみ、島本靖子、Michael Johnson、庭山正嗣、金 鎖赫			
講義回数	8	必修 選択の別	必修	標準 履 修 学 年	1 年	講義回数	8	必修 選択の別	必修	標準 履 修 学 年	1 年
単位	1					単位	1				
開講期	通年	形態	講義			開講期	通年	形態	講義		
授業の目標及び 概要		【目標】研究を戦略的に実施し効果的に成果発表を行うための方法や、異分野と融合し学際的研究を行うため基本的知識を修得する。 【概要】研究資金獲得のための戦略、異分野と連携して新たな価値を創造するための方法論や研究成果を世界に向けて効果的に発信する方法を学修することを通じて高度で実践的な研究を自立して行う能力を養う。				授業の目標及び 概要		【目標】研究を戦略的に実施し効果的に成果発表を行うための方法や、異分野と融合し学際的研究を行うため基本的知識を修得する。 【概要】研究資金獲得のための戦略、異分野と連携して新たな価値を創造するための方法論や研究成果を世界に向けて効果的に発信する方法を学修することを通じて高度で実践的な研究を自立して行う能力を養う。			
授業 の内 容	第1 回	研究費の獲得：【担当：渡井】 研究資金を獲得する戦略として、研究計画書を効果的に作成する方法について学修する。				授業 の内 容	第1 回	研究費の獲得：【担当：渡井】 研究資金を獲得する戦略として、研究計画書を効果的に作成する方法について学修する。			
	第2 回	研究費の獲得：【担当：渡井】 研究資金を獲得する戦略として、研究計画書を効果的に作成する方法に					第2 回	研究費の獲得：【担当：渡井】 研究資金を獲得する戦略として、研究計画書を効果的に作成する方法に			

		について学修する。計画書の一部を作成し、プレゼンテーションとディスカッションを行う。			について学修する。計画書の一部を作成し、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
	第 3 回	英語研究論文の書き方：【担当：渡井】 研究成果を世界に向けて効果的に発信する方法として、英語での論文の書き方を学修する。		第 3 回	英語研究論文の書き方：【担当：島本】 研究成果を世界に向けて効果的に発信する方法として、英語での論文の書き方を学修する。
	第 4 回	英語研究論文の書き方：【担当：Johnson】 研究成果を世界に向けて効果的に発信する方法として、英語での論文の書き方を学修する。英語による論文執筆を一部行い、助言を受ける。		第 4 回	英語研究論文の書き方：【担当：島本、Johnson、佐藤】 研究成果を世界に向けて効果的に発信する方法として、英語での論文の書き方を学修する。英語による論文執筆を一部行い、助言を受ける。
	第 5 回	効果的な英語プレゼンテーション：【担当：Johnson】 研究成果を世界に向けて効果的に発信する方法として、英語でのプレゼンテーションについて学修する。		第 5 回	効果的な英語プレゼンテーション：【担当：Johnson】 研究成果を世界に向けて効果的に発信する方法として、英語でのプレゼンテーションについて学修する。
	第 6 回	効果的な英語プレゼンテーション 【担当：Johnson】 研究成果を世界に向けて効果的に発信する方法として、英語でのプレゼンテーションについて学修する。英語によるプレゼンテーションを実施し、ディスカッションを行う。		第 6 回	効果的な英語プレゼンテーション 【担当：Johnson、佐藤】 研究成果を世界に向けて効果的に発信する方法として、英語でのプレゼンテーションについて学修する。英語によるプレゼンテーションを実施し、ディスカッションを行う。
	第 7 回	学際的研究の方法：【担当：庭山（静岡大学大学院光医学研究科）】 工学分野と連携して学際的研究を行う方法について学修する。工学分野と看護・医療分野で学際的に行われる研究の例を理解し、異分野の研究者と議論ができる素養を身に付ける。自身の研究の発展性を検討する。		第 7 回	学際的研究の方法：【担当：庭山（静岡大学大学院光医学研究科）】 工学分野と連携して学際的研究を行う方法について学修する。工学分野と看護・医療分野で学際的に行われる研究の例を理解し、異分野の研究者と議論ができる素養を身に付ける。自身の研究の発展性を検討する。
	第 8 回	学際的研究の方法：【担当：金 鎖赫（静岡大学情報学部）】 情報学分野と連携して学際的研究を行う方法について学修する。情報学分野と看護・医療分野で学際的に行われる研究の例を理解し、異分野の研究者と議論ができる素養を身に付ける。自身の研究の発展性を検討する。		第 8 回	学際的研究の方法：【担当：金 鎖赫（静岡大学情報学部）】 情報学分野と連携して学際的研究を行う方法について学修する。情報学分野と看護・医療分野で学際的に行われる研究の例を理解し、異分野の研究者と議論ができる素養を身に付ける。自身の研究の発展性を検討する。

		る。			る。
授業方法の特徴		教員による講義および学生による課題プレゼンテーションでのディスカッションを通じて能動的な学修が行えるようにする。	授業方法の特徴		教員による講義および学生による課題プレゼンテーションでのディスカッションを通じて能動的な学修が行えるようにする。
テキスト		各指導教員が適宜準備する。	テキスト		各指導教員が適宜準備する。
参考書・参考資料等		各指導教員が適宜準備する。	参考書・参考資料等		各指導教員が適宜準備する。
成績評価の方法と採点基準		授業での発言状況 (50%)、課題やプレゼンテーションの内容 (50%) によって評価する。評価点が 60 点以上の場合合格とする。 授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。 秀：90 点以上、優：80 点以上 90 点未満、良：70 点以上 80 点未満、可：60 点以上 70 点未満、不可：60 点未満 (100 点満点評価)	成績評価の方法と採点基準		授業への参加・発言状況、課題やプレゼンテーションの内容によって評価する。評価点が 60 点以上の場合合格とする。 授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。 秀：90 点以上、優：80 点以上 90 点未満、良：70 点以上 80 点未満、可：60 点以上 70 点未満、不可：60 点未満 (100 点満点評価)
その他		特になし	その他		特になし

医療倫理学

新						旧							
研究科		医学系研究科看護学専攻 博士後期課程		授 業 科 目 区分	共通科目	研究科		医学系研究科看護学専攻 博士後期課程		授 業 科 目 区分	共通科目		
授業科目名 (英文名)		医療倫理学 (Medical ethics)				授業科目名 (英文名)		医療倫理学 (Medical ethics)					
担当教員		○長田 怜、梅村和夫、堀井俊伸、須田隆文、大磯義一郎、木村通男、小林利彦、山末英典、加藤孝澄				担当教員		○長田 怜、梅村和夫、堀井俊伸、須田隆文、大磯義一郎、木村通男、小林利彦、山末英典、加藤孝澄					
講義回数		10	必修 選択の別	選択必修	標準 履 修 学 年	1 年	講義回数		10	必修 選択の別	選択必修	標準 履 修 学 年	1 年
単位		2					単位		2				
開講期		後期	形態	講義		開講期		後期	形態	講義			
授業の目標及び概要		現代の医療に不可欠の医療倫理と医療安全について教授し、その重要性について理解を得る。				授業の目標及び概要		現代の医療に不可欠の医療倫理と医療安全について教授し、その重要性について理解を得る。					
授業の内容	第1回	医療倫理学概説：【担当：長田】 医療倫理学の誕生の経緯と扱う話題を概説する。とりわけ臨床倫理学の重要な考察点と一般的な考察手法を明示する。そのうえで、倫理的な考察が求められる具体的な臨床事例について、学生自身で考察してもらう。				授業の内容	第1回	医療倫理学概説：【担当：長田】					
	第2回	研究倫理【担当：長田】 大学院生の研究に必要な研究倫理、主に、責任ある研究者の行為、研究における不正行為、共同研究のルール、利益相反及びオーサーシップ					第2回	研究倫理【担当：長田】					

		等について解説する。			
	第3回	医師のキャリアパスと地域医療：【担当：小林】 医師のキャリアパス構築の過程において経験するさまざまなイベントや機会等を、地域医療という観点で倫理的に捉えることの重要性について解説する。		第3回	医師のキャリアパスと地域医療：【担当：小林】
	第4回	医療情報の倫理：【担当：木村】 医療情報システムの概要について、主に研究支援機能を中心に倫理的な観点を踏まえて解説する。		第4回	医療情報の倫理：【担当：木村】
	第5回	医療法と倫理：【担当：大磯】 法は倫理の最低限度といわれるが、我が国の現状は、医療の法化が過度に進んでいるように思われる。医療倫理と医療法のあるべき関係に付き、具体的事例を用いて検討する。		第5回	医療法と倫理：【担当：大磯】
	第6回	精神疾患をめぐる倫理：【担当：山末】 精神疾患の臨床や研究に関連した、患者の権利、患者の同意、等に関わる倫理と関連する社会問題等について解説する。		第6回	精神疾患をめぐる倫理：【担当：山末】
	第7回	臨床研究の倫理：【担当：梅村】 臨床研究を実施する上で理解しなければならない「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」、「臨床研究法」、ならびに「医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令」について解説する		第7回	臨床研究の倫理：【担当：梅村】
	第8回	感染症予防：【担当：堀井】 感染症に関する基本的な診断・治療法・予防について、倫理的な観点を踏まえて解説する。		第8回	感染症予防：【担当：堀井】
	第9回	希少疾患の倫理：【担当：須田】		第9回	希少疾患の倫理：【担当：須田】

	回	リンパ脈管筋腫症（LAM）を例にとって、希少疾患の治療法の開発において、患者団体、行政、基礎研究者、臨床医の連携の重要性を解説する。		回	
	第 10 回	終末期医療をめぐる倫理：【担当：加藤】 終末期医療における意思決定等に関わる倫理及び社会問題について解説する。		第 10 回	終末期医療をめぐる倫理：【担当：加藤】
授業方法の特徴		医療倫理・医療安全等について、様々な視点から講義を行う。	授業方法の特徴		医療倫理・医療安全等について、様々な視点から講義を行う。
テキスト		各担当教員が資料を配布し、講義を行う。	テキスト		各担当教員が資料を配布し、講義を行う。
参考書・参考資料等		各担当教員が必要に応じて紹介する。	参考書・参考資料等		各担当教員が必要に応じて紹介する。
成績評価の方法と採点基準		履修した授業科目について、授業内で提示された倫理的な考察点についての理解度と、それに基づいた学生自身の考察力を測る課題に対するレポート等により、授業担当教員の合議の上、総合的に成績評価を行い、評価点が 60 点以上の場合合格とする。 授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。 秀：90 点以上、優：80 点以上 90 点未満、良：70 点以上 80 点未満、可：60 点以上 70 点未満、不可：60 点未満（100 点満点評価）	成績評価の方法と採点基準		全講義の 70 % 以上に出席（レポート可）した者について、課題に対するレポート等により授業担当教員の合議の上、総合的に成績評価を行い、評価点が 60 点以上の場合合格とする。 授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。 秀：90 点以上、優：80 点以上 90 点未満、良：70 点以上 80 点未満、可：60 点以上 70 点未満、不可：60 点未満（100 点満点評価）

その他	原則、毎週月曜日 17 時 30 分～20 時 00 分	その他	原則、毎週月曜日 17 時 30 分～20 時 00 分
-----	------------------------------	-----	------------------------------

行動神経科学

新						旧					
研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程		授 業 科 目 区分	共通科目		研究科	医学系研究科看護学専攻 博士後期課程		授 業 科 目 区分	共通科目	
授業科目名 (英文名)	行動神経科学 (Behavioral neuroscience)					授業科目名 (英文名)	行動神経科学 (Behavioral neuroscience)				
担当教員	田中悟志					担当教員	田中悟志				
講義回数	15	必修 選択の別	選択必修	標準 履 修 学 年	1 年	講義回数	15	必修 選択の別	選択必修	標準 履 修 学 年	1 年
単位	2					単位	2				
開講期	前期	形態	講義			開講期	前期	形態	講義		
授業の目標及び概要	行動神経科学は、脳機能に焦点を当てて行動メカニズムを探索する学際的な学問分野である。その方法論としては、1) 健康なヒトや脳損傷のある患者さんを対象とした心理・行動計測、2) 機能的 MRI、構造 MRI、PET、MEG、EEG などの脳イメージング、3) TMS、tDCS などの経頭蓋脳刺激法などが挙げられる。本授業の目的は、ヒトを対象とした行動神経科学における方法論について基礎知識と技術を習得することである。					授業の目標及び概要	ヒトを対象とした行動神経科学研究の基礎と実践について学ぶ。行動神経科学分野における研究に必要な基礎知識と基本技術を習得する。				
授業の内容	第1回	行動神経科学入門 行動神経科学とは何か、また行動神経科学で用いられる心理行動計測、脳イメージング、脳刺激法について概説する。				授業の内容	第1回～第3回 Basic of MRI				
	第2回	心理行動計測 (1) 行動神経科学で用いられる心理行動計測の基礎について解説する。精神物理的手法、認知心理学的手法によるパフォーマンス									

	ス測定について解説する。		
第3回	心理行動計測（2） 行動神経科学で用いられる心理行動計測について、実際にコンピュータを用いた計測課題を体験しながら応用的側面を学ぶ。		
第4回	神経心理学（1） 脳損傷患者を対象とした神経心理学研究の基礎について解説する。言語、記憶の機能局在と神経心理検査の基礎について解説する。	第4回～第6回	Experience of MRI
第5回	神経心理学（2） 脳損傷患者を対象とした神経心理学研究の応用について解説する。知覚、感情の機能局在と神経心理検査の基礎について解説する。		
第6回	経頭蓋脳刺激（1） 頭蓋の外から脳を刺激する経頭蓋脳刺激法の基礎について解説する。経頭蓋磁気刺激法(TMS)、経頭蓋電気刺激法(tDCS, tACS)の基礎について解説する。		
第7回	経頭蓋脳刺激（2） 経頭蓋脳刺激法のひとつである経頭蓋磁気刺激法(TMS)について、実際に実験を体験しながら応用的側面を学ぶ。	第7回～第9回	Basic and Experience of Brain stimulation
第8回	経頭蓋脳刺激（3） 経頭蓋脳刺激法のひとつである経頭蓋電気刺激法(tDCS, tACS)について、実際に実験を体験しながら応用的側面を学ぶ。		

		ぶ。		
	第 9 回	脳イメージング（１） 脳活動や形態を非侵襲に可視化する脳イメージング法（機能的 MRI、構造 MRI、PET、MEG、EEG）の基礎について解説をする。		
	第 10 回	脳イメージング（２） 脳イメージング法のひとつである機能的 MRI について、そのデータ取得方法を実際に体験しながら学ぶ。	第 10 回～第 12 回	Basic and Experience of Behavioral Science
	第 11 回	脳イメージング（３） 脳イメージング法のひとつである構造 MRI について、そのデータ取得方法を実際に体験しながら学ぶ		
	第 12 回	脳イメージング（４） 脳イメージング法のひとつである機能的 MRI について、そのデータ分析方法を実際に体験しながら学ぶ。特に空間補正について解説を行う。		
	第 13 回	脳イメージング（５） 脳イメージング法のひとつである機能的 MRI について、そのデータ分析方法を実際に体験しながら学ぶ。特に統計解析について解説を行う。	第 13 回～第 15 回	Analysis of MRI
	第 14 回	脳イメージング（６） 脳イメージング法のひとつである構造 MRI について、そのデータ分析方法を実際に体験しながら学ぶ。特に空間補正と統計解析について解説を行う。		

	第 15 回	まとめ これまでの授業内容について包括的に解説する。行動神経科学の最先端のトピックと今後の展望について解説をする。		
授業方法の特徴	初学者を念頭に入れて、わかりやすく授業を進めます。関連分野としては、精神医学、心理学、精神看護学、神経内科学、神経科学、心療内科学、リハビリテーション医学などがあげられますが、これらに限定するものではなく、広くヒトの心や脳に興味のある学生の受講を希望しています。		授業方法の特徴	初学者を念頭に入れて、わかりやすく授業を進める。 関連分野としては、精神医学、心理学、脳神経外科学、神経内科学、神経科学、心療内科学、リハビリテーション医学などがあげられますが、これらに限定するものではなく、広くヒトの心や脳に興味のある学生の受講を希望しております。
テキスト	プリントを配布する。		テキスト	プリントを配布する。
参考書・参考資料等	特に指定しない。		参考書・参考資料等	特に指定しない。
成績評価の方法と採点基準	課題に対するレポート(50%)、MRI データ分析に関するレポート（50%）等を総合的に評価し、評価点が 60 点以上の場合合格とする。レポートは、（１）授業内容に対する理解度（２）論理構成（３）新規性・独創性、および MRI データ分析に関するレポートについては（４）分析結果の正確性も加えた 4 つの観点から評価する。レポート評価尺度は、それぞれの観点について秀、優、良、可の 4 つで評価する。		成績評価の方法と採点基準	出席 70 パーセント以上の者について、課題に対するレポート、演習の成果等を総合的に評価し、評価点が 60 点以上の場合合格とする。 授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。 秀：90 点以上、優：80 点以上 90 点未満、良：70 点以上 80 点未満、可：60 点以上 70 点未満、不可：60 点未満（100 点満点評価）
その他	特になし		その他	特になし

医学統計学

新						旧									
研究科		医学系研究科看護学専攻 博士後期課程		授 業 科 目 区分		共通科目		研究科		医学系研究科看護学専攻 博士後期課程		授 業 科 目 区分		共通科目	
授業科目名 (英文名)		医学統計学 (Medical statistics)				授業科目名 (英文名)		医学統計学 (Medical statistics)							
担当教員		古屋淳				担当教員		古屋淳							
講義回数		1 5	必修 選択の別	選択必修	標準 履 修 学 年	1 年	講義回数		1 5	必修 選択の別	選択必修	標準 履 修 学 年	1 年		
単位		2					単位		2						
開講期		通年	形態	講義		開講期		通年	形態	講義					
授業の目標及び概要		医学で用いられる統計解析や数理モデルに習熟すること。 科学的根拠に基づく医療においてよく用いられる統計解析を、テキストによって学習する。特に、多群比較における交互作用の問題について、具体的なデータに取り組み、解析することをめざす。				授業の目標及び概要		医学で用いられる統計解析や数理モデルに習熟すること。 科学的根拠に基づく医療においてよく用いられる統計解析を、テキストによって学習する。特に、多群比較における交互作用の問題について、具体的なデータに取り組み、解析することをめざす。							
授業の内容	第1回	推定・検定からの準備：推定・検定からの準備としてまずは正規分布についての基本事項を学ぶ。また、データ処理の際の外れ値の処理についても学修する。【担当：古屋】				授業の内容	第1回	Introduction（1）：【担当：古屋】							
	第2回	検定の考え方と例（1）：検定の考え方を学ぶ。特に符号検定、並べ替え検定、符号付順位和検定等を例としてその考え方を学修する（1）。【担当：古屋】					第2回	Introduction（1）：【担当：古屋】							
	第3回	検定の考え方と例（2）：検定の考え方を学ぶ。特に符号検定、並べ替え検定、符号付順位和検定等を例としてその考え方を学修する（2）。【担					第3回	Introduction（1）：【担当：古屋】							

		当：古屋】			
	第4回	検定の考え方と例(3)：検定の考え方を学ぶ。特に符号検定、並べ替え検定、符号付順位和検定等を例としてその考え方を学修する(3)。【担当：古屋】		第4回	Introduction (2)：【担当：古屋】
	第5回	検定の考え方と例(4)：t検定での統計処理について例を取り上げ、並べ替え検定や符号付順位和検定との比較を行う。【担当：古屋】		第5回	Introduction (2)：【担当：古屋】
	第6回	母平均の符号と信頼区間：両側検定と片側検定の違いをもとに、母平均の符号を決める問題を議論する。また信頼区間の考え方を学修する。【担当：古屋】		第6回	Introduction (2)：【担当：古屋】
	第7回	2群比較の方法(1)：与えられた例に対して、t検定、並べ替え検定、順位和検定を用いることにより2群の比較を行う(1)。【担当：古屋】		第7回	Comparison between two groups (1)：【担当：古屋】
	第8回	2群比較の方法(2)：与えられた例に対して、t検定、並べ替え検定、順位和検定を用いることにより2群の比較を行う(2)。【担当：古屋】		第8回	Comparison between two groups (1)：【担当：古屋】
	第9回	2群比較の方法(3)：累積カイ2乗法、最大累積カイ2乗法を学修し、与えられた例に対してそれらの方法を適用する(1)【担当：古屋】		第9回	Comparison between two groups (1)：【担当：古屋】
	第10回	2群比較の方法(4)：累積カイ2乗法、最大累積カイ2乗法を学修し、与えられた例に対してそれらの方法を適用する(2)【担当：古屋】		第10回	Comparison between two groups (2)：【担当：古屋】
	第11回	2群比較の方法の応用例：ここまでで学んできた2群比較の方法のさらなる応用例を取り扱いその適用法を学ぶ。：【担当：古屋】		第11回	Comparison between two groups (2)：【担当：古屋】
	第12回	多群比較の方法(1)：具体例を取り扱うことにより、多群比較の方法の基礎を学ぶ(1)。【担当：古屋】		第12回	Comparison between two groups (2)：【担当：古屋】
	第13回	多群比較の方法(2)：具体例を取り扱うことにより、多群比較の方法の基礎を学ぶ(2)。【担当：古屋】		第13回	Comparison between two groups (3)：【担当：古屋】

	第 14 回	多群比較における交互作用（１）：具体的な例を取り扱うことにより、交互作用の定義やその問題の解析法等について学ぶ（１）。【担当：古屋】		第 14 回	Comparison between two groups（３）：【担当：古屋】
	第 15 回	多群比較における交互作用（２）：具体的な例を取り扱うことにより、交互作用の定義やその問題の解析法等について学ぶ（２）。【担当：古屋】		第 15 回	Comparison between two groups（３）：【担当：古屋】
授業方法の特徴	基本的な講義に加えて、推定・検定の種々の具体的な例に関して、その検討を行う。		授業方法の特徴	基本的な講義に加えて、推定・検定の種々の具体的な例に関して、その検討を行う。	
テキスト	広津千尋「医学・薬学データの統計解析」（東京大学出版会）2004 年発行		テキスト	広津千尋「医学・薬学データの統計解析」（東京大学出版会）2004 年発行	
参考書・参考資料等	特に指定しない。		参考書・参考資料等	特に指定しない。	
成績評価の方法と採点基準	履修した授業内容についてのレポートで評価する。レポートは与えられた課題に対して「問題を的確に理解して問題に取り組んでいるか」「論的思考に基づき議論が進められているか」「的確に要点を押さえることにより課題を完成させることが出来ているか」について総合的に判断する。その評価点が 60 点以上の場合を合格とする。 授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。 秀：90 点以上、優：80 点以上 90 点未満、良：70 点以上 80 点未満、可：60 点以上 70 点未満、不可：60 点未満（100 点満点評価）		成績評価の方法と採点基準	出席 70 パーセント以上の者についてレポート等を総合的に評価し、評価点が 60 点以上の場合合格とする。 授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。 秀：90 点以上、優：80 点以上 90 点未満、良：70 点以上 80 点未満、可：60 点以上 70 点未満、不可：60 点未満（100 点満点評価）	

その他	特になし	その他	特になし
-----	------	-----	------

疫学方法論

新						旧							
研究科		医学系研究科看護学専攻 博士後期課程		授 業 科 目 区分	共通科目	研究科		医学系研究科看護学専攻 博士後期課程		授 業 科 目 区分	共通科目		
授業科目名 (英文名)		疫学方法論 (Principles of Epidemiology)				授業科目名 (英文名)		疫学方法論 (Principles of Epidemiology)					
担当教員		○尾島俊之、中村美詠子、柴田陽介				担当教員		○尾島俊之、中村美詠子、柴田陽介					
講義回数		1 5	必修 選択の別	選択必修	標準 履 修 学 年	1 ・ 2 年	講義回数		1 5	必修 選択の別	選択必修	標準 履 修 学 年	1 ・ 2 年
単位		2					単位		2				
開講期		通年	形態	講義		開講期		通年	形態	講義			
授業の目標及び概要		疫学の目的、疫学指標・人年法・相対危険・寄与危険、疫学研究デザイン、バイアス・偶然・交絡、多変量解析、スクリーニング・検査前確率などの疫学研究の基本的な事項・方法論について理解する。				授業の目標及び概要		疫学の目的、疫学指標・人年法・相対危険・寄与危険、疫学研究デザイン、バイアス・偶然・交絡、多変量解析、スクリーニング・検査前確率などの疫学研究の基本的な事項・方法論について理解する。					
授業 の 内 容	第 1 回	疫学とは：【担当：尾島】 疫学の定義、目的（目標）について解説する。古典的な疫学研究から、現在の疫学研究に至る歴史を学修することにより、疫学研究の概要を理解する。				授業 の 内 容	第 1 回	疫学とは：【担当：尾島】					
	第 2 回	疾病頻度の測定（疾病と曝露、疫学指標）：【担当：尾島】 疫学における疾病、曝露の概念、区分、測定法、割合、率、比の定義、人年法を用いた率の計算法について解説する。疫学指標として罹患率、累積罹患、有病率、死亡率、致命率等の定義、測定法を理解する。					第 2 回	疾病頻度の測定（疾病と曝露、疫学指標）：【担当：尾島】					
	第 3	疾病頻度の測定（相対危険と寄与危険）：【担当：中村】					第 3	疾病頻度の測定（相対危険と寄与危険）：【担当：中村】					

	回	相対危険、寄与危険、寄与危険割合、集団寄与危険、集団寄与危険割合の概念、定義について解説する。疫学研究デザインとの関係、指標の適用法について理解する。		回	
	第4回	既存のデータ：【担当：中村】 国勢調査、人口動態調査、生命表、患者調査、国民生活基礎調査、国民健康・栄養調査、循環器疾患基礎調査について解説する。既存統計やデータの活用法について理解する。		第4回	既存のデータ：【担当：中村】
	第5回	疫学研究方法：【担当：中村】 疫学研究方法について、記述疫学／分析疫学、観察研究／介入研究、横断研究／縦断研究、分析単位（集団／個人）の視点から解説する。		第5回	疫学研究方法：【担当：中村】
	第6回	疫学研究方法【担当：中村】 生態学的研究、横断研究、症例対照研究、コホート研究、無作為化比較試験について解説する。それぞれの疫学研究デザインの概要（長所、短所を含む）を理解する。		第6回	疫学研究方法【担当：中村】
	第7回	偏りと交絡：【担当：柴田】 母集団と標本、偶然誤差と系統誤差、精度と妥当性、内的妥当性と外的妥当性、検定と推定について解説する。偶然誤差の制御について理解する。		第7回	偏りと交絡：【担当：柴田】
	第8回	偏りと交絡：【担当：柴田】 バイアスと交絡、選択バイアスと情報バイアス、差異誤分類と非差異誤分類、標準化について解説する。バイアスと交絡の制御方法や制御の限界について理解する。		第8回	偏りと交絡：【担当：柴田】
	第9回	因果関係：【担当：尾島】		第9回	因果関係：【担当：尾島】

	回	疫学研究における因果関係の判断条件（一致性、強固性、特異性、時間性、整合性、量反応関係、生物学的妥当性）について解説する。研究デザインに応じた因果関係の推定について理解する。		回	
	第 10 回	スクリーニング：【担当：尾島】 スクリーニングの目的、意義、スクリーニング検査に関わる指標（感度、特異度、陽性・陰性反応適中度、陽性・陰性尤度比、検査前・検査後確率）の定義およびカットオフ値、ROC 曲線について解説する。スクリーニングの役割、活用について理解する。		第 10 回	スクリーニング：【担当：尾島】
	第 11 回	サーベイランスと疾病登録：【担当：柴田】 サーベイランスと疾病登録の目的、意義および感染症サーベイランス、がん登録、循環器疾患登録について解説する。サーベイランスの役割、活用について理解する。		第 11 回	サーベイランスと疾病登録：【担当：柴田】
	第 12 回	臨床疫学：【担当：柴田】 無作為化比較試験（Randomized controlled trial:RCT）に関わる指標とメタ解析について解説する。Evidence-based medicine（EBM）における臨床疫学の役割について理解する。		第 12 回	臨床疫学：【担当：柴田】
	第 13 回	疫学に必要な統計：【担当：尾島】 標本抽出法と標本サイズの求め方、検定や推定に関わる諸事項（帰無仮説と対立仮説、点推定と区間推定、多重比較の問題等）について解説する。検定、推定結果の解釈について理解する。		第 13 回	疫学に必要な統計：【担当：尾島】
	第 14 回	疫学に必要な統計：【担当：尾島】 交絡因子の調整に用いられる多変量解析法（重回帰分析、共分散分析、ロジスティック回帰分析、Cox の比例ハザードモデル）について解説する。		第 14 回	疫学に必要な統計：【担当：尾島】

		る。得られた結果（回帰係数、オッズ比、ハザード比等）の解釈について理解する。			
	第 15 回	教科書を越えるより高度な分析等：【担当：尾島】 プロペンシティスコア（傾向スコア）、欠損値補完法、操作変数等について解説する。多変量解析法や高度な解析法を用いた疫学研究例を紹介する。		第 15 回	教科書を越えるより高度な分析等：【担当：尾島】
授業方法の特徴		必要に応じて、履修生の抱える研究計画、データ分析について教員及び履修生で検討を行う。	授業方法の特徴		必要に応じて、履修生の抱える研究計画、データ分析について教員及び履修生で検討を行う。
テキスト		中村好一「基礎から学ぶ楽しい疫学 第3版」（医学書院）2013年発行	テキスト		中村好一「基礎から学ぶ楽しい疫学 第3版」（医学書院）2013年発行
参考書・参考資料等		各担当教員が必要に応じて紹介する。	参考書・参考資料等		各担当教員が必要に応じて紹介する。
成績評価の方法と採点基準		履修した科目について、授業での取組（授業での発言状況（50%）、ディスカッションへの積極的な参加（50%））を総合的に評価し、評価点が60点以上の場合合格とする。 授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。 秀：90点以上、優：80点以上90点未満、良：70点以上80点未満、可：60点以上70点未満、不可：60点未満（100点満点評価）	成績評価の方法と採点基準		出席70パーセント以上の者について授業での取組等（授業への参加・発言状況、ディスカッションへの積極的な参加）を総合的に評価し、評価点が60点以上の場合合格とする。 授業科目の成績評価は、秀、優、良、可、不可の標語をもって表し、不可を不合格とする。 秀：90点以上、優：80点以上90点未満、良：70点以上80点未満、可：60点以上70点未満、不可：60点未満（100点満点評価）

その他	隔年開講	その他	隔年開講
-----	------	-----	------